

公明党要望項目一覧

平成28年度5月補正分

要望項目	左に対する対応方針等
<p>○関西ワールドマスタースゲームズ2021に於いて、実施競技のグラウンドゴルフを発祥の地である鳥取県内に誘致すべく、県内での競技場や練習場の整備を進めること。県内の温泉地やその周辺の現状を調査し、グラウンドゴルフとセットでの温泉宿泊プランが組めるよう、また国内や方面の大会が誘致できるよう整備されたい。特に、芝生の競技場・練習場の整備や、公認競技場の整備も進めること。</p>	<p>現在、グラウンドゴルフ発祥地である湯梨浜町において、県補助金を活用した競技施設の整備が進められている。</p> <p>また、グラウンドゴルフ発祥地大会や国際大会の開催に対し、外国人観光客の多様なニーズにも対応できるよう、案内看板の多言語化や客室への支援など外国人観光客がストレスなく快適に温泉宿泊プランを楽しんでいただけるよう取り組みを進めている。</p> <p>こうした取組を積み重ね、関西ワールドマスタースゲームズ2021の誘致に向けた魅力化を進めていく。</p>
<p>○介護職場環境調査並びに環境改善を強力に推進すること。</p> <p>厚生労働省の集計によると、仕事のストレスが原因でうつ病などの精神疾患を発症し、労災を申請した介護職員が、2009年66人から2014年には140人とこの5年間で2倍以上増えた。</p>	<p>今年度、鳥取県社会福祉協議会が、県の支援を受けて、介護・福祉分野の職場・従業者を対象に、仕事の満足度、悩み、不安・不満等の職場労働環境等の調査を行い実態の把握に努めることとしている。</p> <p>介護職場の環境改善についても、職場環境改善研修会（ストレス対策等）や階層別研修（福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程）を実施するとともに、介護事業所全体の知識や技術向上のため、指導者を派遣する「介護職員の事業所全体レベルアップ事業」や、介護事業所の行う人材育成研修等に助成する「介護職員、小規模事業所グループ支援事業」を活用し環境改善を図っていく。</p> <p>また、鳥取労働局とも連携し、介護保険事業者に対して県が行う集団指導の際に、労働条件の確保・改善（メンタルヘルス等を含む。）に係る説明を労働局から併せて行うなど、職場環境改善につながる取組を進めていきたい。</p>
<p>○病児・病後児保育普及推進に取り組むこと。</p> <p>保護者が安心して働きながら子育てができる環境づくりを進める上で、病児・病後児保育の充実は欠かせない子育て支援である。</p>	<p>県内の病児・病後児保育体制の充実を図るため、本県独自で、国の補助制度の対象とならない小規模な施設に対する運営費支援や、新規開設の際の改修費の国庫補助への上乗せ支援を実施しており、本年度からは、市町村圏域を超えた広域利用を推進するための市町村への支援制度を設けたところである。</p> <p>これらの取組により、県内の施設数は、平成23年度の17施設から平成27年度末時点で26施設へと着実に増加しており、引き続き実施主体である市町村の取組を支援していくとともに、本年度から実施する病児・病後児保育に従事する職員の研修受講等への支援を通じて、病児・病後児保育の体制の充実を図っていく。</p>
<p>○境港・東海・ウラジオストクを結ぶ環日本海定期国際フェリー航路の開設から7年目を迎える。乗船客数の増加に対し課題は貨物である。貨物量の増加対策に一層取り組むこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、環日本海航路によるトライアル輸送の一層の推進 2、県の農産品等のロシア極東地方への輸出の促進 3、環日本海航路との連結によるシベリア鉄道を活用した 	<p>DBSを活用した韓国向け小口冷蔵、冷凍輸送サービスの構築及びシベリア鉄道と連結したモスクワへの物流拡大に向けたトライアル輸送の実施について、運送事業者等と調整を行っている。</p> <p>農産品等の輸出促進に関しては、従来の店舗販売に加え、今年3月にウラジオストクのレストラン13店舗で鳥取フェアを開催し、業務用食材の販路拡大に取り組んだところであり、今年度も沿海地方との友好提携25周年記念事業として8月にレストランフェアを開催するなど、さらなる販路拡大を図る。また、韓国向け原木輸出の定着化を支援するとともに、定時性や輸送スピードなどDBS航路の強みを活かし、山陽地域等の自動車メーカー等の企業にも引き続き利用を働きかけていく。</p>

要望項目	左 に 対 す る 対 応 方 針 等
モスクワまでの物流ルート開発の調査研究	
○境漁港高度衛生管理型漁港・市場整備事業が進められている。将来を見据えEU・HACCPに対応する魚市場への検討をすること。	EU・HACCPへの対応については、将来的に市場関係者の意向等により必要性が生じた場合でも、軽易な施設改修（EU輸出専用区域の確保等）やソフト対策により対応できるよう整備を進めている。
○空の駅構想では、鳥取県東部圏域を中心に滞留時間や宿泊人口の増加を目標にすべきである。砂の美術館やマリニピア賀露、各地の道の駅など集客が進んでいるが、そうした方々がさらに圏域を見て体験して楽しんで滞在してもらう工夫が大切である。他施設への来訪者も含めてどう空の駅へ集客するか、この点を考慮して集客目標を立て、それにあつた整備計画を立てること。	鳥取砂丘コナン空港の目指す空の駅構想は、空港を拠点に航空利用者のみならず一般の観光客や地域住民の皆さんも気軽に訪れ、楽しんでいただけるようなエリア整備を行うものである。鳥取砂丘コナン空港においても、鳥取砂丘やマリニピア賀露との距離が近いなどのメリットを踏まえ、空港を観光庁へ申請準備中の広域観光周遊ルートの結節点に位置付け、滞在型観光も含め、より集客を図ることができるよう、エリアの関連団体とも連携しながら、引き続き「空の駅」整備を進めていく。 なお、28年度は国内線ターミナルビルと国際会館の一体化による機能強化にかかる基本構想を策定することとしており、策定にあたっては、航空利用者数のみならず国際会館の利用者数など、今後の集客目標を想定しながら、施設の規模や構造、求めるべき機能などについて検討を進める。
○総務省は2020年までに全国すべての小・中・高等学校に無線LAN「Wi-Fi」を導入する方針を出している。また文部科学省の専門会議はデジタル教科書を20年度に導入することを提案しており、本県においても小・中・高等学校へのIT教育の推進と機器設置の整備を一層推進すること。	県立学校においては、教育用パソコンをはじめタブレット端末、電子黒板機能付プロジェクター等のICT機器の整備を進めており、今後とも学校の意向等を踏まえ整備を図っていく。 また、無線LAN環境の整備、デジタル教科書の導入についても国の動向等を踏まえて、今後、検討していきたい。 なお、小中学校については、設置者である市町村において整備されるものであるが、常々、市町村（学校組合）教育委員会に対してICT活用能力向上のための環境整備を働きかけており、国の動向も踏まえ引き続き働きかけていく。 また、ICT活用教育を推進するためには、教職員の指導力、活用力の向上が必須であり、平成27年3月に策定した『ICT活用教育推進ビジョン』に沿って、各学校でのICT活用教育をより一層推進するため、今まで行っている経験年数に応じた研修（初任者研修・10年経験者研修等）や希望により受講する専門研修における情報モラルやICT活用に関する研修に加え、本年度から新たに学校CIO研修、情報化推進リーダー研修、市町村内の学校職員を対象とした出前研修等の研修を実施することとしており、その研修のなかで、無線LAN「Wi-Fi」等の環境の整備や活用等、先進的な取組についての紹介も行う。
○県内高速道路、なかでも鳥取自動車道での相次ぐ事故とそれによる通行止めが続いている。原因究明と抜本的な対策を早急に講じること。	高速道路は一般道に比べて高速度で走行するため、一度交通事故が発生すると多重事故につながるおそれがあることから、その対策として速やかに通行止めの上迂回措置を行っている。 事故原因としては、前方不注意等によるものが多いことから、運転者に緊張感を与えるため、パトカーの赤色灯を点灯したレッド走行、広報検問、交通指導取締り等の街頭活動を継続して行うなどの事故防止対策を実施していく。 なお、暫定2車線による供用が事故の重大化や事故発生時の渋滞の原因のひとつとなっていることから、道路管理者である国土交通省及びNEXCO西日本に対し、早期の全線4車線化と当面の対策としての付加車線の整備促進を強く要望しているところであり、今後も引き続き働きかけを行

要望項目	左に対する対応方針等
	っていく。